

港区・在日カナダ大使館共催 まちなかコンサート

I'm Glad There Is You—オスカー・ピーターソンに捧ぐ

令和 7 年 11 月 4 日（火）午後 6 時 30 分 |

在日カナダ大使館 オスカー・ピーターソン・シアター（東京）

この特別な夜は、世界的なジャズ・ピアニストで作曲家であるオスカー・ピーターソン（1925–2007）の生誕 100 周年を祝うものでした。モントリオール（カナダ）出身のピーターソンは、日本でも数多くの公演を行い、1999 年には高松宮殿下記念世界文化賞（Praemium Imperiale）を受賞するなど、日本との深い関わりを持っていました。港区と在日カナダ大使館の共催により、彼の偉大な音楽的功績に敬意を表するコンサートが開催されました。

この 90 分のプログラムでは、カナダ人ヴォーカリストのジュヌヴィエーヴ“ジジ”マレンテット氏と日本人ピアニストの小沢咲希氏が、あまり知られていないピーターソンの一面—ピアニストや作曲家としてだけでなく、歌手や作詞家としての側面—を探りました。

演奏曲には、1961 年のアルバム『Romance: The Vocal Stylings of Oscar Peterson』、1957 年の『Soft Sands』、そして 1965 年の心のこもったトリビュート・アルバム『With Respect to Nat』からの楽曲が含まれました。また、あまり演奏されることのないオリジナル曲「Why Think About Tomorrow」と「I'd Never Dreamed I'd Be Without You」も披露されました。

ピアニストの小沢咲希氏は、ピーターソンへのソロ・トリビュートとして、『Canadiana Suite』より「Wheatland」、『Trail of Dreams』より「When Summer Comes」を演奏しました。

特別ゲストとしてヴォーカリストの Toku 氏が登場し、「I've Never Left Your Arms」と「Hymn to Freedom」を日本語詞で披露しました。

メインプログラムは「Hymn to Freedom」で締めくくられ、この不朽の平等と希望の讃歌が会場を包みました。アンコールでは「One for My Baby (and One More for the Road)」が演奏され、夜は感動的に幕を閉じました。

物語、音楽、対話を通じて、この夜はピーターソンの人間性と革新性に光を当て、国境を越えて響く彼の声とビジョンを讃えるものとなりました。